

(曾於郡末吉町諏訪方)

位置と環境

上中段遺跡は、末吉町諏訪方の田方集落と五位塚集落の間に所在する。標高249～241mの東南に傾斜したシラス台地で、北側に大淀川支流の村山川が東流し、谷水田を形成している。南側にも同じく大淀川支流の小河川や菱田川の上流が東流する。

このようにシラス台地を河川上流が樹枝状に浸食し、台地上に畑が底地には水田が開かれている。

調査の経緯

調査は、県営特殊農地保全整備事業に伴い、本町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て、昭和60年度に事前調査を実施した。基本的には、トレンチ調査であったが、部分的に拡張して調査を実施した。

上中段遺跡の層序は以下のとおりである。

I層は耕作土である。

II層は黄白色軽石層で、桜島起源の文明降下軽石(ボラ)と言われ、1471年頃とされる。

III層は黒色腐植土層である。

IV層は茶褐色土層で、下部は縄文時代晩期の包含層である。

V層は暗茶褐色土層で縄文時代後期・晩期の包含層である。

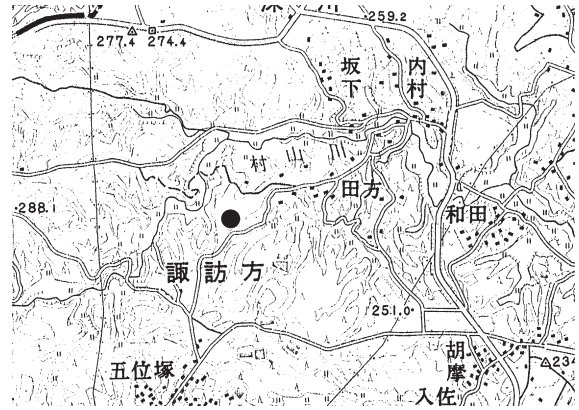
VI層は黄褐色軽石層で、霧島火山御池軽石層とされる。約4,100年前の噴出物とされている。

本遺跡の遺構・遺物は、縄文時代中・後期から奈良・平安時代にかけての複合遺跡であるが、縄文時代晩期後半の様相を示す資料が中心である。

本遺跡の遺構は、VI層に掘り込まれた土坑19基が検出され、遺物も出土している。出土遺物から縄文時代中・後期該当期と縄文時代晩期該当期に分けられる。

しかし、土坑は1m内外の小規模なもので、居住空間とは考えられず、住居跡の検出はされていない。

石器は石斧や石鏃など出土しているが、この遺跡特有なものは少ない。土器は稲作開始という日本文化期を画する段階に貴重な資料を提供する重要な出



第1図 上中段遺跡の位置

土であった。

石器は、磨製・打製の石斧、打製石鏃、敲石、石鏃、削器などが出土した。

石斧は10点以上出土しており、ほとんど基部に抉りを持つもので、斧の機能と土掘り具の機能が考えられる。

石鏃は40点以上出土しており、石材は砂岩を多く利用している。基部の形態は、平基式と凹基式に分けられる。敲石は表面を使って磨石としても利用している。

縄文時代中・後期と晩期前・中葉の土器は、出土数は少ない。本遺跡の主体をなすのは縄文時代晩期後葉の刻目突帯文土器群である。

縄文時代中・後期の土器は、沈線文様などから岩崎下層式、岩崎上層式、指宿式、綾系土器などである。土製加工品は、メンコと呼ばれる土製品も出土している。

縄文時代晩期前・中葉の土器は、器形や口縁部形態から入佐式・黒川式土器に比定される。頸部などにリボン状突起をつけるものもある。この時期は深鉢と浅鉢に大別でき、深鉢は粗製土器で浅鉢は精製土器が多い。

縄文時代晩期後葉の土器は、西北九州の刻目突帯文を有する夜白式土器が多数出土している。夜白式土器の編年系統は晩期中葉頃の黒川式土器から変化し、ついには弥生土器の端緒とされる板付I式と共伴するとされる。その間に時期差が考えられ、夜白I式(山ノ寺式)→夜白IIa式(夜白単純期)→夜白IIb式(板付1式と共伴)の編年案が提示されて

いる。このうち一部は山ノ寺式に比定され、上中段遺跡の資料を古い段階に位置づけられている。

夜白式土器群の中には、底部に靨痕が見られる土器片がある。この靨痕は鉢の底部に斜めにささった状態で2本の線が見られる。長さは約5mmである。隣の都城市・黒土遺跡では炭火米の付着した土器も出土しているが、同市坂元A遺跡では縄文時代晩期後半の水田跡も検出されている。水田土壌のプラントオパール（植物けい酸体）の分析から熱帯ジャポニカの栽培が行われていた可能性があるという。

なお、本遺跡の土器組成は、甕・鉢・浅鉢・高坏、それに朝鮮無文土器に出自すると考えられる丹塗り磨研壺・彩文土器がセットで出土している。また、組織痕土器（蔴目圧痕）を多く伴っている。圧痕部分は胴部から底部にかけてであるが、底部が大部分である。組織痕の研究から近時は縄文時代の衣服の状況の解明に向けた新しい取り組みが始まっている。

奈良・平安時代の土器は、土師器（皿や坏・甕）・須恵器が出土しており、土師器の中に墨書土器や内

面に布目圧痕をもつ土器もある。量は少ない。

特徴

上中段遺跡は大隅半島の大淀川上流域にあたり、稲作農耕文化がこの地にどのようなルートで伝来してきたかを考える上で重要な遺跡である。都城市での同時期の発掘例もあり、今後この地での稲作開始の諸状況もだんだん明確になっていくであろう。

伝来ルートについては、単一のルートだけとは限らず広く東アジアの稲作遺跡を見ながら複数の伝播ルートも考慮しつつ、九州島のうちでの土器編年も見ながら確定されていくものと思われる。

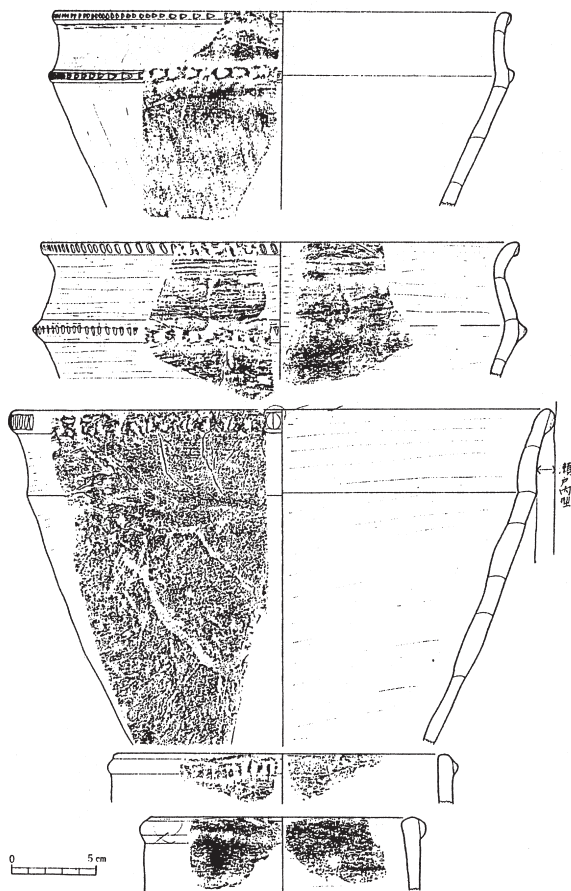
資料の所在

出土遺物は、末吉町立歴史民俗資料館に保管されている。

参考文献

末吉町教育委員会1986「上中段遺跡」『末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書』4

(勝目興郎)



第2図 上中段遺跡